

第7回 胎内市総合計画策定審議会 議事要旨

1. 日時

平成28年6月28日（火）19：00～20：30

2. 場所

胎内市役所 5階501会議室

3. 出席者

【胎内市総合計画策定審議会委員】

中野友美委員、坂上タキ江委員、高橋三樹男委員、中原拓也委員、関谷浩史委員、高橋賢一委員、安城守英委員、威本悠希委員、久世秋絵委員

【事務局】

総合政策課長、総合政策課企画政策係長、係員、計画策定支援事業者

4. 議事内容

事務局より基本構想素案、基本計画構成イメージ等について、資料に沿って説明を行った後、各委員から発言。主な発言内容は下記のとおり。

【基本構想素案について】

- 前回から今回にかけて、これくらい変わってくれば（見やすくて）良いのかなと感じている。次は、この基本政策の内容に対してどう肉付けをしていくかを議論するのが重要となる。人口減少や農家の後継の問題などについてこれまでも話題に上がっているが、そういう人がこの町に来やすく住みやすいようにするためには、昔からいる我々が何をすべきなのかということを考えていきたいと思う。
- 骨組みとしてはしっかりとしたものができたので、今後どう肉付けしていくかが大事というご指摘だと思う。
- 説明が丁寧になり流れができています。表現が曖昧だったところもより具体的になっているので、この内容であれば以前より市民が内容をイメージしやすくなっていると感じた。

【基本計画の構成について】

- 例えば農家の後継者に関する部分で言えば、昔は用水の管理などの面で農家は田んぼのそばに家が必要じゃなかったが、自動で水の開け閉めができるようになったことで、まちなかに家を構え奥さんは別の仕事をしているという状況もある。田んぼを自分が通う工場や会社だと捉えれば、その作業所にちょっとした休憩室やシャワー室を設置してちょっと汚れていればシャワー浴びてから帰るといった新しいことが考えられる。また、町の中に空き家・空地が増えているので、新しく入ってくる人にはそういうところに優先して入ってもらおうといったことも考えられる。新しく人がやって来ても集落のような慣習の強い所ではせつかくの夢が壊れてしまう懸念もあるので、こうしたことを考えると、現在の基本政策には繋がっているものが結構あると思う。こうした部分をどう取り扱うのか。重ならないように整理すれば良いのかも知れないが。
- 大規模かつ効率的な農業をやる上で外から生産をコントロールするというのはとても可能性のある発言だと思うので、こうした攻めの内容をどこかで検討して欲しいと思う。

- 重点戦略が一番気になる部分である。下の主要施策の中にも恐らく重要な取組というのが出てくると思うので、その中から重点戦略を選ぶというやりの方が分かりやすいのではないかと。
また、主要施策についてはもう少し減らすことができれば更に分かりやすく、方針が見えてくるのではないかと思う。資料3に基本計画の構成イメージが出ているが、これが主要施策1つ1つに作られると情報量がとても多くなってしまいうので、例えば「〇〇福祉の充実」を1つにまとめる、「子育て支援の充実」と「子どもの教育の充実」を子ども中心の支援充実とするなどもう少しコンパクトにすることを考えていただきたい。
それから、まだイメージの段階ではあるが、「具体的にこういうことをしていく」という内容が書かれるものであって欲しいと思う。
- 私も重点戦略は気になっている。まず重点戦略の位置づけだが、基本施策があって、それにぶら下がる形で主要施策があって、この30の施策を横につないで「ここに集中しましょう」というのが重点戦略という理解で良いか。
- この体系図だと基本施策と主要施策の間にこれを跨ぐような箱が入っているので、基本施策があって、重点戦略というフィルターを通して主要施策があるように見えてしまう。重点戦略を主要施策の下に置くのはいかがか。
- 重点「戦略」というのは言葉の定義からするとこちらから能動的に動くというイメージになるが、主要施策の中にも何かしらの言葉として含まれるはずである。最終的には市民の方が分かりやすいよう簡潔明瞭にということ考えると、基本政策とそれに対応する主要施策という2区分でも良いのではないかと思う。
主要施策の項目については、確かに「〇〇福祉の充実」と似たものも多いが、高齢者の方や障がい者の方が見られることを考えるとむしろ分かれていた方が読みやすいのではないかと思う。他に「災害に強いまちづくり」と「安全・安心の地域」など一緒にできるかもと感じるものはあるが、54を30にしているということなのでこれはこの形で良い。
あともう1点、土曜日に市長の話をお聞きする機会があったのだが、2016年度の住みやすさランキングで胎内市が県内2位、全国では74位になったということだった。様々な量り方ができるものだが、昨年4位で今年2位という話なので、「今度は1位を目指そう」というようなキャッチコピーを入れても良いかなと感じたところである。
ただ、5つの基本政策と30の主要施策で凝縮して作られているということなので、基本的に賛成、重点戦略の必要性については検討して欲しいというところである。
- 項目が多いと分かりにくくなってしまいうので主要施策を54から30まで絞り込んだというのは賛成である。これをもっとスリムにするという方向性も考えられるが、あまりまとめ過ぎると言いたいことがぼやける恐れもある。市民一人一人の関心は異なり、30の施策の中で自分が興味のあるところを読むと思うので、これぐらいの配分が分かりやすくてちょうど良いのではないかと。
- 私もこの基本政策については賛成である。何より市民が分かりやすいことが一番だと思うので、主要施策についてはこれ以上少なくできないとすると、できるだけ読みやすいものになるようにして欲しい。
- 市民の方が総合計画を読み込むことはあまりないのではないかと。それよりも市民向けにダイジェスト版をつくることで読みやすさの問題はかなり対応できるのではないかと思う。ダイジェスト版のようなものを作る予定はあるのか。

○子ども版を各家庭で読めるようにという話があったが、家庭にそこまで求めるのは現実的にはなかなか難しいところがあるので、学校の授業の一環として使えるものとして考えて欲しい。それから、一生懸命考えて作ってもそこまで真剣に受け止めていただけない、場合によっては1頁も開いてもらえないこともあるので、なるべく簡潔にまとめて欲しい。

○地方創生の総合戦略とこの計画の重点戦略の関係をもう一度説明して欲しい。前者が後者に落とし込まれるものなのか、あるいは後者では別に考えるということなのか。

【市民ワークショップの成果について】

○特に留意すべき意見は、1つ例示すると、「他人事でなく自分事に」というのが大きな方向性として出ている点か。